

要配慮者利用施設 避難行動タイムライン作成の勧め

平成31年3月
岡山県 保健福祉課

目次

はじめに.....	1
I. 避難確保計画の作成・避難訓練の義務化について.....	1
II. タイムライン作成の勧め.....	2
III. 本書の位置付け.....	3
IV. タイムライン作成の全体フロー.....	5
タイムラインの作成手順.....	6
0. 検討を始めるための準備.....	6
1. 施設の利用状況の確認.....	7
2. 施設ハザードの確認.....	8
3. 安全な避難先の検討.....	10
4. 避難場所までの避難経路の検討.....	11
5. 避難を行うための準備や所要時間の検討.....	13
6. 避難に必要な備品や浸水対策資機材の確認.....	14
7. 体制確立や避難開始等のタイミングの検討.....	15
参考1. タイムラインのPDCA サイクルの循環.....	25
I. 【Do】、【Check】に活用できる机上訓練.....	25
II. 【Act】に活用できる“見直しのポイント集”.....	26
参考2. 避難確保計画とBCPとの位置付けの違い.....	27
参考3. 施設・設備・製品等の保全・減災対策.....	28

はじめに

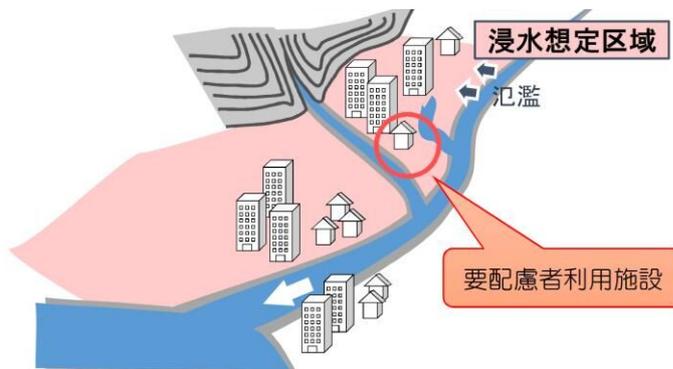
I. 避難確保計画の作成・避難訓練の義務化について

浸水想定区域や土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設の管理者等は、**避難確保計画の作成・避難訓練の実施**が義務となりました。

水防法及び土砂災害防止法の改正（H29.6）により、洪水による浸水が想定される区域や土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設※について、避難確保計画の作成及び訓練の実施が義務化されました。

計画を作成しない場合には、市町村長からの指示、それに従わない場合にはその旨が公表されます。

※要配慮者利用施設は、社会福祉施設、学校、医療施設、その他の主として防災上の配慮を要する方々が利用する施設です。



※「洪水浸水想定区域」とは、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域であり、河川等管理者である国または都道府県が指定します。



※「土砂災害警戒区域」とは、土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、都道府県知事が指定します。

(出典：水防法・土砂災害防止法の改正について 要配慮者利用施設の管理者・所有者向け、国土交通省ホームページ)

Ⅱ. タイムライン作成の勧め

タイムラインは、多発する水害や土砂災害の発生に備えて、施設利用者の円滑かつ迅速な安全確保に必要な**防災行動を「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して整理した計画**です。

タイムラインを検討することで、作成が義務化されている「避難確保計画」の検討も同時に進めることができます。

近年では、気候変動により非常に激しい雨や大雨の頻度は増加傾向にあり、全国で洪水や土砂災害による被害が頻発しています。

平成 30 年 7 月豪雨では、小田川の決壊により倉敷市真備町の浸水被害や土砂災害による家屋被害等、岡山県全域で多くの被害が発生し、高齢者福祉施設や病院等の要配慮者利用施設においても被害が発生しました。

要配慮者利用施設の管理者・所有者は、「いつ」、「誰が」、「何をするか」を時系列に整理した「タイムライン」を作り上げ、洪水・土砂災害に備えることが重要です。



写真1 倉敷市真備町
平成 30 年 7 月豪雨 浸水状況

(出典：中国地方整備局 平成 30 年 7 月豪雨出水概要)



写真2 新見市足立地区
平成 30 年 7 月豪雨 土砂災害の状況

(出典：岡山県 第 1 回災害検証委員会資料)

Ⅲ. 本書の位置付け

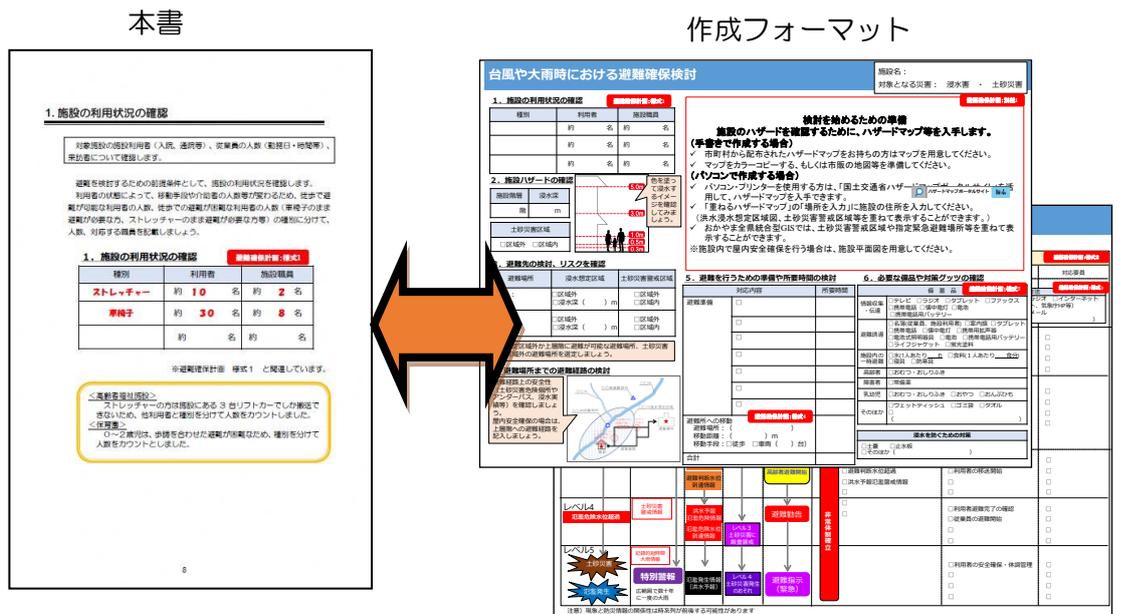
①対象者

本書「要配慮者利用施設避難行動タイムライン作成の勧め」は、市町村の地域防災計画において、浸水想定区域内または土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設の管理者、所有者を対象としています。自施設が地域防災計画に位置づけられているか市町村の防災部局に確認してください。

②本書の使い方

本書は、洪水時・土砂災害時に施設利用者の安全確保を行うためのタイムラインを作成するための手順をまとめたものです。

本書を見ながら、タイムライン作成フォーマットに諸情報を記入していくことで、タイムラインが作成できます。



本書（7頁以降）は、次の構成で記載されています。

1. 施設の利用状況の確認

対象施設の施設利用者（入院、通院等）、従業員の人数（勤務日・時間帯）、来訪者について確認します。

避難を検討するための前提条件として、施設の利用状況を確認します。利用者の状態によって、移動手段や介助者の人数等が変わるため、徒歩で避難が可能な利用者の人数、徒歩での避難が困難な利用者の人数（車椅子のまま避難が必要な方、ストレッチャーのまま避難が必要な方等）の種別に分けて、人数、対応する職員を記載しましょう。

1. 施設の利用状況の確認 避難確保計画：様式1

種別	利用者	施設職員
ストレッチャー	約 10 名	約 2 名
車椅子	約 30 名	約 8 名
	約 名	約 名

※避難確保計画 様式1 と関連しています。

<高齢者福祉施設>
ストレッチャーの方は施設にある3台リフトカーでしか搬送できないため、他利用者と種別を分けて人数をカウントしました。

<保育園>
0～2歳児は、歩調を合わせた避難が困難なため、種別を分けて人数をカウントとしました。

作成フォーマットの番号とリンクしています。

この手順で検討する事項が記載されています。

この手順で気をつけるべきポイントや必要性が記載されています。

作成フォーマットへの記入例が記載されています。また、**避難確保計画の関連様式※**を記入しています。

代表施設においてタイムラインを作成した際の関係者からの意見や作成にあたっての留意事項等を記載しています。

※避難確保計画とタイムラインの関係性

タイムラインを検討することで、作成が義務化されている「**避難確保計画**」の検討も同時に進めることができます。避難確保計画の作成には、国土交通省が作成した「計画作成のひな型」を使用します。

（国土交通省ホームページ 「要配慮者利用施設の浸水対策」）

避難確保計画作成の手引き(洪水・内水・高潮)

- 要配慮者利用施設 (PDF:534KB、DOC:1.41MB)、医療施設等(PDF:573KB、DOC:1.41MB)
- 計画作成の手引き別冊 (PDF:2.05MB) 計画作成のひな形(DOC:497KB、XLS:268KB)
- 既存の計画への追記による避難確保計画の作成 (PPTX:102KB)

IV. タイムライン作成の全体フロー

要配慮者利用施設のタイムラインの作成の流れを以下に示します。

【0】 検討を始めるための準備

- ・ハザードマップ等を入手します。

【1】 施設の利用状況の確認

- ・避難特性（種別）ごとに施設利用者数と職員数を整理します。

【2】 施設ハザードの確認

- ・施設とその周辺の浸水、土砂災害によるリスクを把握します。
- ・立ち退き避難、屋内安全確保の判定を行います。

【3】 安全な避難先の検討

- ・安全な避難先について検討するため、避難先のリスクを確認します。

【4】 避難場所までの避難経路の検討

- ・施設から避難場所までの安全な避難経路を選定します。

【5】 避難を行うための準備や所要時間の検討

- ・避難を行うために係る対応や移送に係る所要時間を検討します。

【6】 必要な備品や浸水対策資機材の確認

- ・避難誘導や一時避難時に必要な備品や浸水防止対策に必要な資機材を確認します。

【7】 体制確立や避難開始等のタイミングの検討

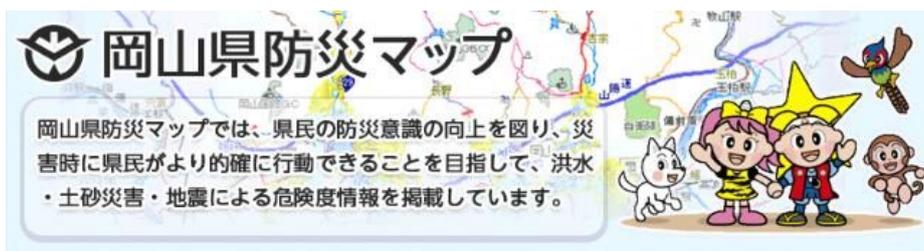
- ・現象、防災情報に対して、取るべき体制と対応を検討します。

タイムラインの作成手順

0. 検討を始めるための準備

施設のハザードを確認するために、市町村のホームページ等からハザードマップ等を入手します。

作成方法	入手手段
手書きで作成	<ul style="list-style-type: none">✓ 市町村から配布された洪水ハザードマップをお持ちの方はマップを用意してください。✓ マップをカラーコピーする、もしくは市販の地図等を準備してください。✓ 施設内で屋内安全確保を行う場合は、施設平面図を用意してください。
パソコンで作成	<ul style="list-style-type: none">✓ パソコン・プリンターを使用する方は、「岡山県防災マップ」を活用して、ハザードマップを入手できます。✓ 「重ねるハザードマップ」の「場所を入力」に施設の住所を入力してください。（洪水浸水想定区域図、土砂災害警戒区域等を重ねて表示することができます。）✓ おかやま全県統合型 GIS では、土砂災害警戒区域や指定緊急避難場所等を重ねて表示することができます。



📖 ハザードマップを確認しましょう



日ごろから地域の災害危険性を認識し、災害発生時には迅速な非難行動や災害応急対応を行えるよう、あなたの地域の危険度情報を確認しておきましょう。

岡山県では、下記の5種の危険度情報をおかやま全県統合型GISを利用して公開しています。

このホームページでは、郵便番号、住所または地図上から災害ごとの危険度情報を確認できます。

また、市町村では、危険度情報に加えて避難所情報などを掲載したハザードマップを作成しています。あなたの市町村のハザードマップを確認したい方はこちらから。

[👉 県内各市町村のハザードマップ一覧](#)

1. 施設の利用状況の確認

対象施設の利用者数（入院、通院等）、施設職員の人数（勤務日・時間帯）、
について確認しましょう。

避難を検討するための前提条件として、施設の利用状況を確認します。

利用者の状態によって、移動手段や介助者の人数等が変わるため、徒歩で避難が可能な利用者の人数、徒歩での避難が困難な利用者の人数（車椅子のまま避難が必要な方、ストレッチャーのまま避難が必要な方等）の種別に分けて、人数、対応する職員を記載しましょう。

1. 施設の利用状況の確認

避難確保計画：様式1

種別	利用者	施設職員
ストレッチャー	約 10 名	約 2 名
車椅子	約 30 名	約 8 名
	約 名	約 名

※避難確保計画 様式1 と関連しています。

<高齢者福祉施設>

ストレッチャーの方は施設にある3台リフトカーでしか搬送できないため、他利用者と種別を分けて人数をカウントしました。

<保育園>

0～2歳児は、歩調を合わせた避難が困難なため、種別を分けて人数をカウントとしました。

2. 施設ハザードの確認

施設やその周辺で想定される浸水深を確認しましょう。
施設やその周辺が土砂災害区域の区域内か区域外か確認しましょう。

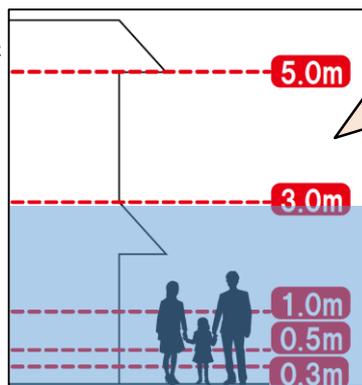
ハザードマップ等を確認し、施設のハザードを確認します。建物のどの高さまで浸水するか確認しましょう。なお、一般的には1階の軒下3.0m程度、2階の軒下5.0m程度と示しているが、建物の立面図等がある場合は、実際の建物高さから、浸水する階層を確認しましょう。施設周辺についてもどのくらいの浸水が想定されているか確認しましょう。

また、土砂災害警戒区域内に施設が入っているか、施設周辺に土砂災害警戒区域があるか確認しましょう。

2. 施設ハザードの確認

施設階層	浸水深
2階	0.5~3.0m

土砂災害区域	
<input checked="" type="checkbox"/> 区域外	<input type="checkbox"/> 区域内



色を塗って浸水するイメージを確認してみましょう。

<障害者福祉施設>

施設が土砂災害警戒区域内に入っている。浸水想定区域内には入っていないが周辺の浸水は想定されているので、避難の際には洪水についても注意が必要なことを確認しました。

<病院>

一般的な建物高さでは2階まで浸水する想定だったが、立面図を確認した結果、1階までの浸水で想定できることが確認でき、対応すべきボリュームが減りました。

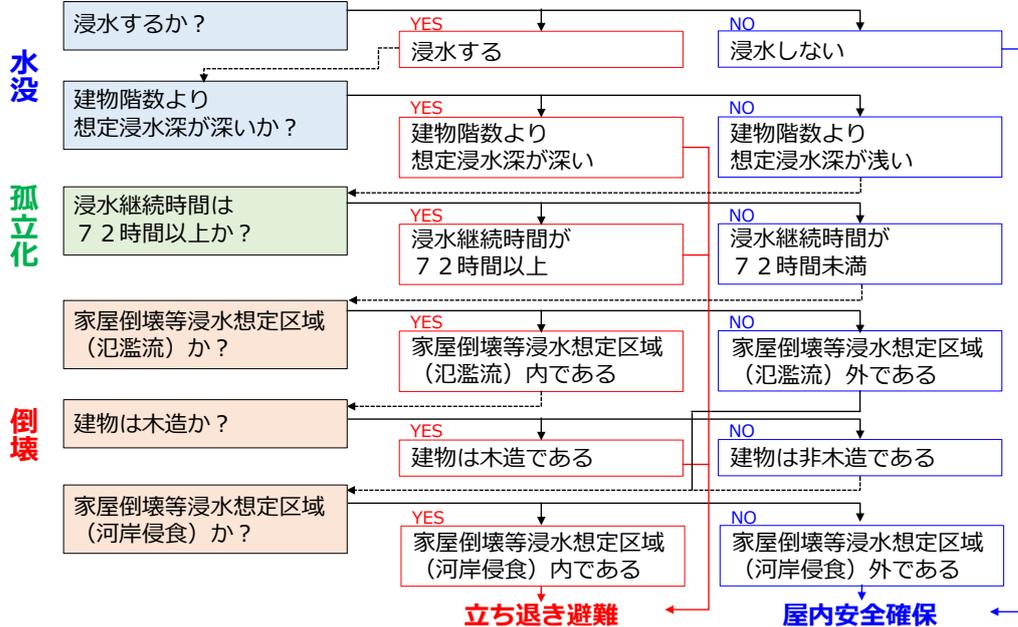
※立ち退き避難と屋内安全確保について

立ち退き避難は、施設から指定緊急避難場所等へ立ち退きする避難行動を示します。
 屋内安全確保は、施設内の上層階へ退避する避難行動です。

土砂災害警戒区域内の場合：立ち退き避難

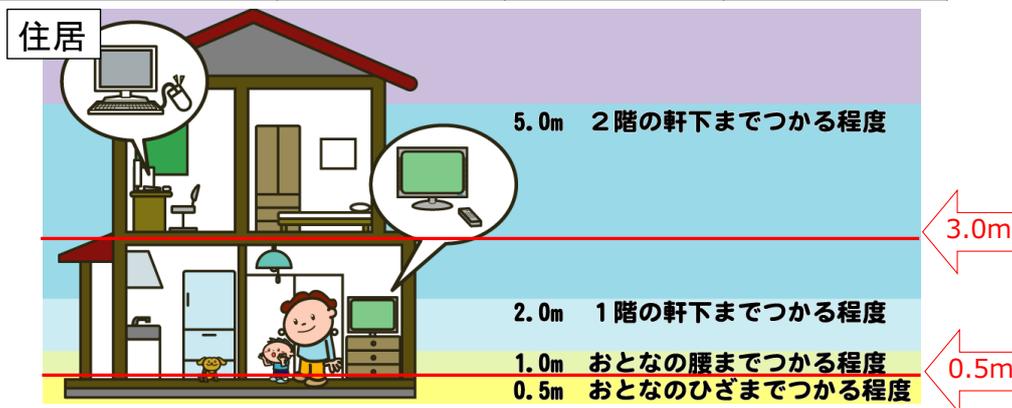
浸水想定区域内の場合：以下の手順で立ち退き避難と屋内安全確保を判定

想定最大規模の洪水浸水想定区域図には、浸水深、浸水継続時間、家屋倒壊等浸水想定区域図が公表されており、以下のフローに従って「立ち退き避難」、「屋内安全確保」を判定します。なお、浸水深と階層の関係は一般例であり、各施設の図面等で階層高さ等を確認する必要があります。



浸水深のみの場合は、以下の通り立ち退き避難、屋内安全確保の判定を行います。

浸水階・浸水深	平屋	2階建て	3階建て
3階浸水 5.0m～	立ち退き避難	立ち退き避難	立ち退き避難
2階浸水 3.0m～5.0m未満	立ち退き避難	立ち退き避難	屋内安全確保
1階浸水 0.5m～3.0m未満	立ち退き避難	屋内安全確保	屋内安全確保
床下浸水 0.5m未満	屋内安全確保	屋内安全確保	屋内安全確保



3. 安全な避難先の検討

避難先の浸水深が建物階層と比べて避難が可能なのか、土砂災害警戒区の区域外なのか区域外なのか、確認して安全な避難先を選定しましょう。

避難場所は、市町村が指定した最寄りの「指定緊急避難場所」が基本となりますが、適切な指定緊急避難場所が無い場合、近隣の安全な場所への移動が考えられます。ハザードマップ等を用いて、施設から避難場所までの距離や、避難場所の浸水・土砂災害の危険性を踏まえ、避難先を検討しましょう。

3. 避難先の検討、リスクを確認

避難場所	浸水想定区域	土砂災害警戒区域
施設名：○○小学校 階層：3階	<input type="checkbox"/> 区域外 <input checked="" type="checkbox"/> 浸水深 (0.5) m	<input checked="" type="checkbox"/> 区域外 <input type="checkbox"/> 区域内
施設名： 階層：	<input type="checkbox"/> 区域外 <input type="checkbox"/> 浸水深 () m	<input type="checkbox"/> 区域外 <input type="checkbox"/> 区域内

<障害者福祉施設>

避難先での集団生活にうまく適応できずパニックに陥る（知的障害者、精神障害者など）ことが考えられるため、同じグループ法人の障害者福祉施設を避難先とすることにしました。

<高齢者福祉施設>

小学校が最寄りの指定緊急避難場所として指定されていましたが、避難先の環境を踏まえると体調を崩してしまうリスクが高い方もいるため、近隣の病院を緊急避難先として協議を行うことにしました。

4. 避難場所までの避難経路の検討

施設から避難場所までの安全な避難経路を検討し、書き込みましょう。

避難経路上の安全性（土砂災害危険箇所やアンダーパス、浸水実績等）を確認しましょう。

また、屋内安全確保を行う場合は、1階から上層階への避難経路を検討しましょう。

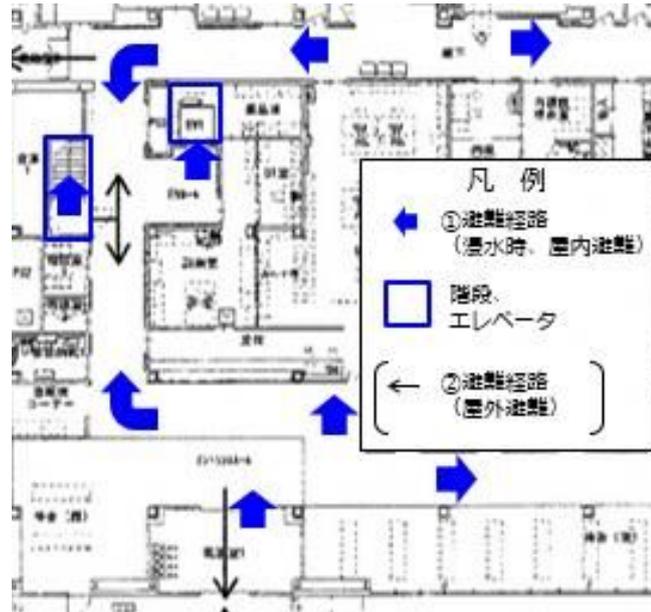
<保育園>

施設から避難場所までの最短経路（ルート①）は、用水路からの浸水の可能性があるため、ルート②を設定しました。ルート②も車等で渋滞が起きている場合も考えられるため、ルート③を設定しました。



<病院>

施設の1階が水没する可能性があるため、浸水の危険性が高まった場合は、2階以上に屋内安全確保することとし、施設内の1階から上層階への避難経路を設定しました。



5. 避難を行うための準備や所要時間の検討

避難準備の具体的な対応内容や、避難所場所への移動時間について検討します。

避難訓練など把握している場合は、より正確な時間が想定できます。

避難を行うために必要な準備対応について書き出しましょう。

対応によっては、順序を追って行う対応と、人数をかければ並行に行える対応があります。なるべく所要時間をかけないように、施設の人員数を踏まえて工夫しましょう。

また、避難訓練を実施することで、対応内容のブラッシュアップや、より正確な所要時間を把握し、洪水や土砂災害に備えましょう。

5. 避難を行うための準備や所要時間の検討

対応内容		所要時間
避難準備	①利用者の家族への連絡	20分
	②利用者の家族への受渡し	随時
	③避難路の安全確保	10分
	③持ち出し品の準備	30分
避難所への移動	避難確保計画：様式4 避難場所：(○○小学校) 移動距離：(500)m 移動手段： <input checked="" type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 車両()台	60分
避難準備から避難完了までの所要時間(合計)		110分

<保育園>

地震を想定した避難訓練を実施しており、園児の待機や持ち出し品の準備等の避難準備時間、避難先への移動時間を正確に把握することができました。

6. 避難に必要な備品や浸水対策資機材の確認

情報収集・伝達や避難誘導のために必要な備品や、地震にも備えた水、食糧等も備蓄しましょう。

避難確保のためには、必要な情報を収集・伝達し、避難誘導を行う必要があります。また、避難所での生活に備えた食糧や利用者特性に合わせた備蓄品の持ち出しも必要となります。食糧は地震災害等も踏まえ最低 3 日分は備蓄しましょう。

また、洪水に対して施設への浸水を防ぐ対策も準備が必要です。必要な備品、浸水対策資機材等にチェックを入れて、洪水・土砂災害に備えましょう。

6. 避難に必要な備品や浸水対策資機材の確認

備蓄品		避難確保計画: 様式5
情報収集・伝達	<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> タブレット <input checked="" type="checkbox"/> ファックス <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> 携帯電話用バッテリー	
避難誘導	<input checked="" type="checkbox"/> 名簿(従業員、施設利用者) <input checked="" type="checkbox"/> 案内旗 <input type="checkbox"/> タブレット <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話 <input checked="" type="checkbox"/> 懐中電灯 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯用拡声器 <input checked="" type="checkbox"/> 電池式照明器具 <input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> 携帯電話用バッテリー <input checked="" type="checkbox"/> ライフジャケット <input type="checkbox"/> 蛍光塗料	
施設内の一時避難	<input checked="" type="checkbox"/> 水(1人あたり <u>6</u> リットル) <input checked="" type="checkbox"/> 食料(1人あたり <u>9</u> 食分) <input checked="" type="checkbox"/> 寝具 <input type="checkbox"/> 防寒具	
高齢者	<input type="checkbox"/> おむつ・おしりふき	
障害者	<input type="checkbox"/> 常備薬	
乳幼児	<input checked="" type="checkbox"/> おむつ・おしりふき <input checked="" type="checkbox"/> おやつ <input checked="" type="checkbox"/> おんぶひも	
その他	<input checked="" type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> ゴミ袋 <input checked="" type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> (ミルク、簡易マット)	
浸水を防ぐための対策		
<input checked="" type="checkbox"/> 土嚢 <input type="checkbox"/> 止水板 <input type="checkbox"/> その他 ()		

<保育園>

持ち出し品は、避難バックとして準備してあるため、地震時の場合も直ぐに持ち出しができるよう備えています。

7. 体制確立や避難開始等のタイミングの検討

台風や大雨の際には、現象に応じて気象庁や国土交通省、県、市町村から様々な防災情報が発表されます。

現象や防災情報に応じて、必要な体制を整え、対応にあたりましょう。

【STEP1】フォーマットに記載の内容を確認しましょう。

台風や大雨の際の「現象」（降雨や水位上昇）に応じた、気象庁や国土交通省、県、市町村から様々な「防災情報」が、上から下への時系列で記載されています。また、その右横には、要配慮者利用施設の体制やその判断材料、対応内容の雛型が記載されています。

河川氾濫や土砂災害の発生までの現象・防災情報・対応の全体像を把握しましょう。

要配慮者利用施設避難行動タイムライン		施設名 岡山保育園 対象となる災害：3.洪水害・土砂災害の両方	
7. 体制確立や避難開始等のタイミングの検討			
現象	防災情報	施設名：(岡山保育園)	の対応
警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4
警戒レベル1 大雨の約1日前 台風発生・接近 台風情報 早期注意情報 (発報時の即時性)	気象庁警報等 洪水予報 水位超過情報 土砂災害 の注意情報 警戒レベル1 “避難開始”	体制確立の判断材料 <input type="checkbox"/> 早期注意情報（警報級の可能性） <input type="checkbox"/> 警戒レベル1“心構えを高める”	対応内容 <input type="checkbox"/> 防災情報の収集(1分) 収容方法 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット（気象庁HP、おやかま防災ポータル） <input type="checkbox"/> 総社市からのメール <input type="checkbox"/> 防災行政無線
警戒レベル2 1日前～直前直中 大雨開始 水位上昇 氾濫注意水位超過 河川名：高家川 氾濫箇所名：白羽 河川名：香井川 氾濫箇所名：御休	大雨注意報 洪水注意報 洪水予報 氾濫注意水位 超過情報 土砂災害に 関するメッシュ情報 (注意) 警戒レベル2 “避難行動の準備”	<input type="checkbox"/> 大雨注意報・洪水注意報の発表 <input type="checkbox"/> 洪水予報氾濫注意情報 <input type="checkbox"/> 土砂災害に関するメッシュ情報（注意） <input type="checkbox"/> 氾濫注意水位超過 <input type="checkbox"/> 警戒レベル2“避難行動の確認”	<input type="checkbox"/> 防災情報の収集(1.5分) <input type="checkbox"/> 浸水防止対策の準備(2分) <input type="checkbox"/> 避難場所の確保(1分) <input type="checkbox"/> 避難職員への事前連絡(1分) <input type="checkbox"/> 持ち出し品のチェック(1分) <input type="checkbox"/> 避難経路の確認(分) <input type="checkbox"/> 利用者への注意喚起(分)
警戒レベル3 早期避難 避難判断水位超過 河川名：高家川 避難箇所名：白羽 河川名：香井川 避難箇所名：御休	大雨警報 洪水警報 洪水予報 氾濫警報情報 土砂災害に 関するメッシュ情報 (警戒) 警戒レベル3 “避難者などは避難”	<input type="checkbox"/> 大雨警報・洪水警報の発表 <input type="checkbox"/> 洪水予報氾濫警報情報 <input type="checkbox"/> 土砂災害に関するメッシュ情報（警戒）	<input type="checkbox"/> 職員の出発(20分) <input type="checkbox"/> 土庫の総点検(20分) <input type="checkbox"/> 止水栓の総点検(30分) <input type="checkbox"/> 重要備品、粉塵の確認(3分) <input type="checkbox"/> 利用者家族への連絡(3分) <input type="checkbox"/> 利用者家族への引渡し(3分) <input type="checkbox"/> 持ち出し品の準備(3分) <input type="checkbox"/> 利用休止の判断(3分) <input type="checkbox"/> 持ち出し品を乗客への積込(3分) <input type="checkbox"/> 避難経路の確認(5分)
警戒レベル4 避難 氾濫危険水位超過 河川名：高家川 氾濫箇所名：白羽 河川名：香井川 氾濫箇所名：御休	土砂災害 警戒注意 洪水予報 氾濫危険水位 超過情報 土砂災害に 関するメッシュ情報 (注視に相当) 土砂災害発生 に関するメッシュ情報 (極めて危険) 警戒レベル4 “避難指示”	<input type="checkbox"/> 避難判断水位超過 <input type="checkbox"/> 避難準備警報等避難開始 <input type="checkbox"/> 警戒レベル3“避難者などは避難”	<input type="checkbox"/> 避難場所の判断(20分) <input type="checkbox"/> 避難所への移動開始(15分)
警戒レベル5 緊急対応 土砂災害 発生 大雨特別警報 (大水害) 土砂災害 発生 洪水予報 氾濫発生情報 土砂災害に 関するメッシュ情報 (極めて危険) 警戒レベル5 “災害発生情報”	避難指示 避難指示 (緊急) 警戒レベル4“避難” <input type="checkbox"/> 避難に関するメッシュ情報（即時に危険） <input type="checkbox"/> 土砂災害に関するメッシュ情報（極めて危険）	<input type="checkbox"/> 避難警報・避難指示（緊急） <input type="checkbox"/> 警戒レベル4“避難” <input type="checkbox"/> 土砂災害に関するメッシュ情報（即時に危険） <input type="checkbox"/> 土砂災害に関するメッシュ情報（極めて危険）	<input type="checkbox"/> 利用者避難完了の確認(5分) <input type="checkbox"/> 利用者家族への避難先連絡(分) <input type="checkbox"/> 乗客への緊急搬送要請(分)
警戒レベル5 緊急対応 土砂災害 発生 大雨特別警報 (大水害) 土砂災害 発生 洪水予報 氾濫発生情報 土砂災害に 関するメッシュ情報 (極めて危険) 警戒レベル5 “災害発生情報”	<input type="checkbox"/> 警戒レベル5“命を守る最善の行動”	<input type="checkbox"/> 利用者の安全確保・体調管理(5分)	<input type="checkbox"/> 全職員

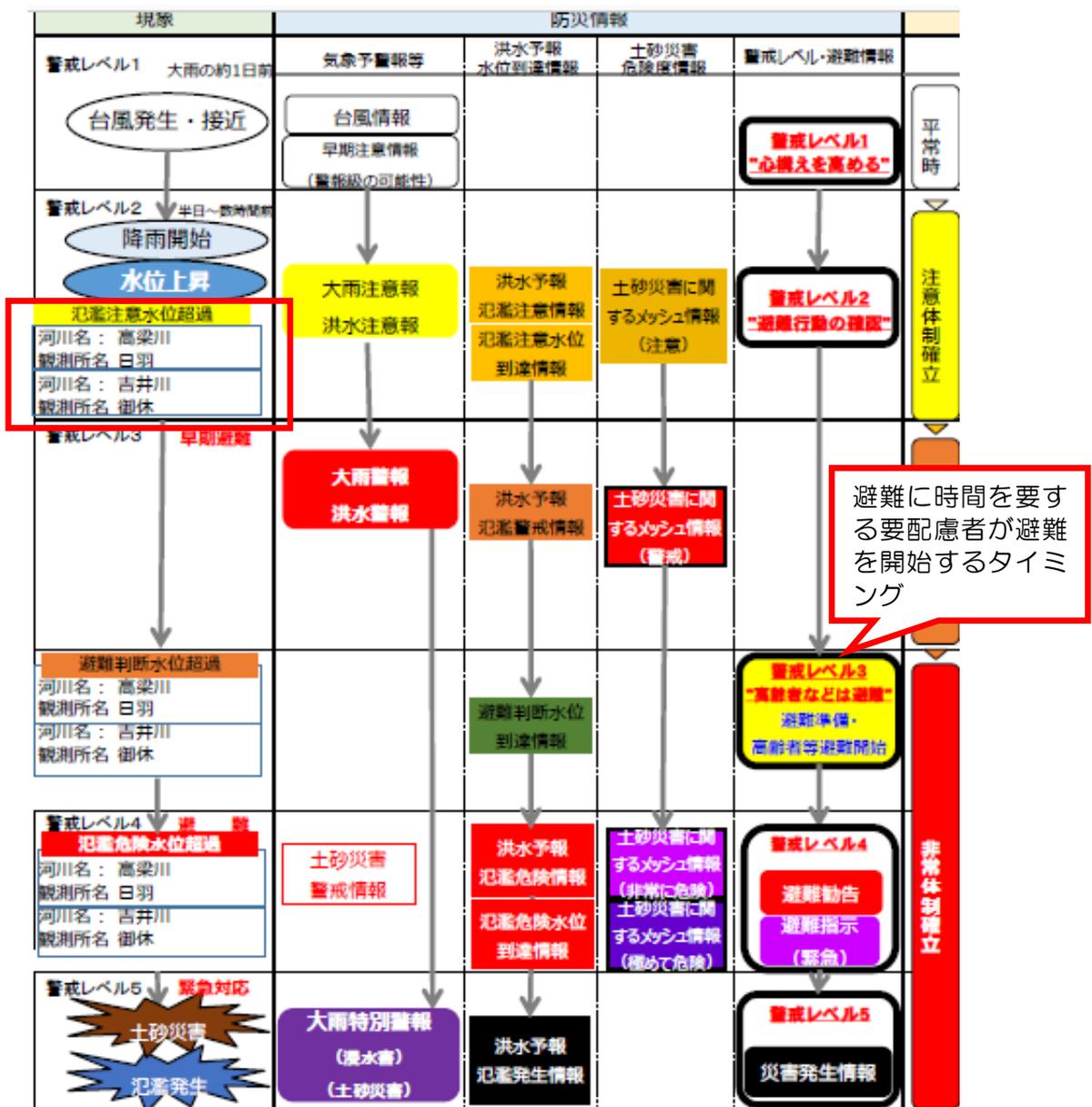
注意：現象と防災情報の関係は時系列が前後する可能性があります。

【STEP2】防災情報の意味合いを確認しましょう。

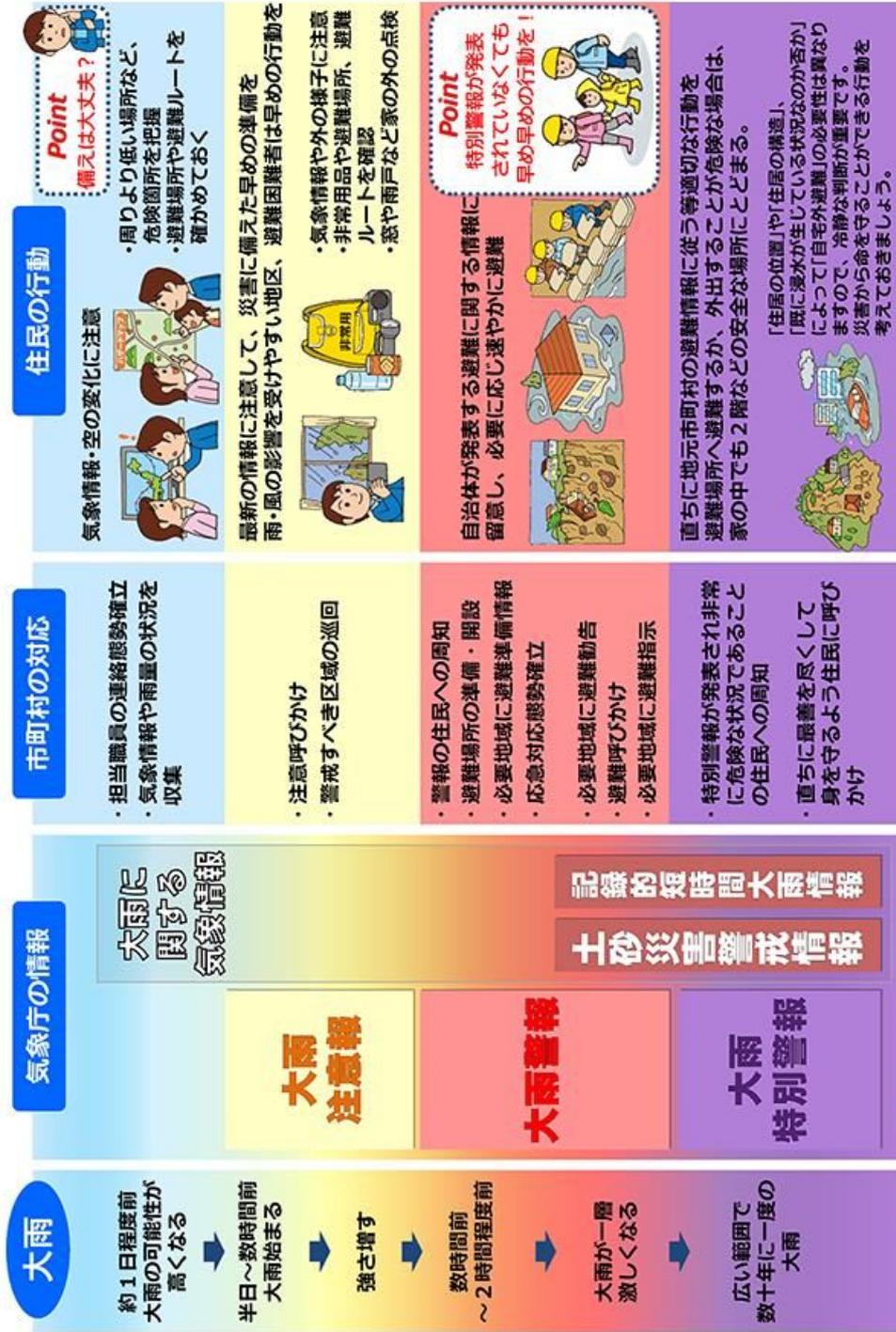
浸水想定区域内の要配慮者利用施設は、対象となる河川と最寄りの水位観測所を確認して記入しましょう。水位観測所の位置は、洪水ハザードマップやインターネット（川の防災情報、川の水位情報、おかやま防災ポータル）で確認することができます。

要配慮者の避難のタイミングとして非常に重要な情報は、市町村から発表される「避難準備・高齢者等避難開始」です。

防災情報の意味合いは、次頁に示しますが、おかやま防災ポータル（災害への備え）で詳細について確認することができます。



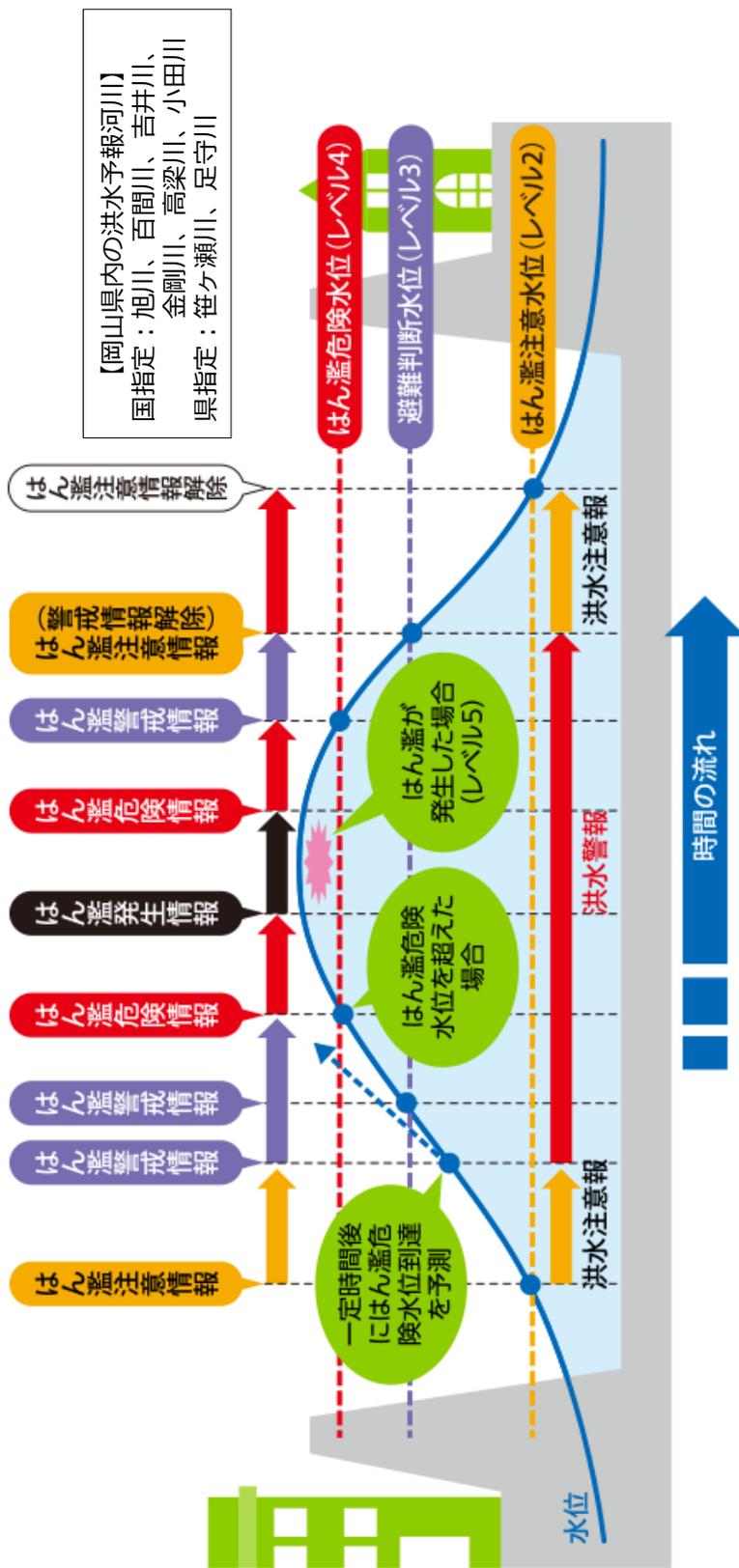
防災情報の意味合い 気象予警報等のタイミング（目安）と市町村の対応、住民の行動



出典：気象庁作成資料

防災情報の意味合い：洪水予報

- 水位等の予測が技術的に可能な「流域面積が大きい河川」で洪水のおそれがある場合に、河川管理者と所管する気象台とで共同して発表します。発表する情報としては、「氾濫注意情報」、「氾濫警戒情報」、「氾濫危険情報」、「氾濫発生情報」の4つがあり、市町村、市町村、報道機関等を通じてお知らせします。



「洪水予報」の入手方法については、こちらの「防災情報の入手方法」でご確認ください。
 また、気象庁ホームページでも「防災情報」の「指定河川洪水予報」で公開しています。
 (URL: <http://www.jma.go.jp/jp/flood/>)

防災情報の意味合い：水位到達情報

- 流域面積が小さく洪水予報を行う時間的余裕がない河川で、河川管理者が発表します。河川の水位が「特別警戒水位」に到達した場合に、その旨を市町村、報道機関等を通じてお知らせします。

【岡山県内の水位周知河川】

県指定： 吉井川、金剛川、八塔寺川、吉野川、梶並川、加茂川、宮川、滝川
旭川、砂川（旭川水系）、宇甘川、備中川、高梁川、小田川、成羽川
笹ヶ瀬川、砂川（笹ヶ瀬川水系）、倉敷川、里見川

関係する気象警報・注意報

洪水警報

洪水警報は、大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる重大な災害として、河川が増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害があげられます。

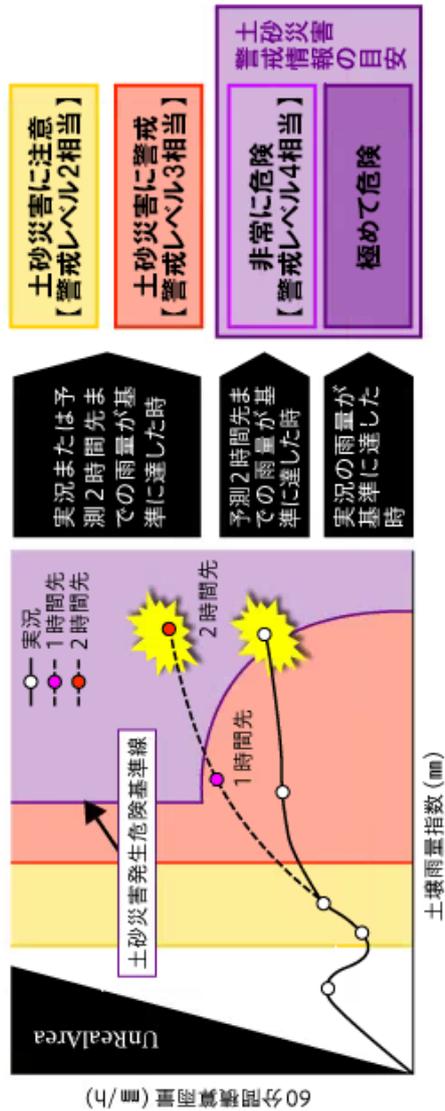
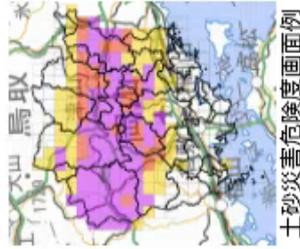
洪水注意報

洪水注意報は、大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる災害として、河川が増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害があげられます。

防災情報の意味合い：土砂災害危険度情報 (岡山土砂災害危険度情報の危険度の判定ルール)

土砂災害危険度の判定

危険度レベル	判定ルール	備考
土砂災害に注意 【警戒レベル2相当】	実況または2時間先までの雨量が一定の水準に達したとき	大雨注意報の目安
土砂災害に警戒 【警戒レベル3相当】	実況または2時間先までの雨量が一定の水準に達したとき	大雨警報の目安
土砂災害に嚴重警戒 【警戒レベル4相当】	2時間先までの雨量が土砂災害発生危険基準線に達したとき	土砂災害警戒情報の目安
土砂災害発生の恐れ 【極めて危険】	実況の雨量が土砂災害発生危険基準線に達したとき	



防災情報の意味合い：避難情報



※津波災害は、危険地域からの一刻も早い避難が必要であることから、「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」は発令せず、基本的には、「避難指示(緊急)」のみを発令する。

【STEP3】防災に関する情報の収集方法を確認しましょう。

防災に関する情報について、どのような手段で情報収集が可能か確認をしておきましょう。

おかやま防災ポータルでは、避難情報等の緊急情報や気象情報、観測情報を確認することができます。

施設名：（ ）の対応		避難確保計画：様式2
体制確立の判断材料	対応内容	対応要員
<p>平常時</p>	<p>収集方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> テレビ（データ放送） <input checked="" type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット（おかやま防災ポータル、気象庁HP等） <input checked="" type="checkbox"/> 防災行政無線 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急速報メール <input checked="" type="checkbox"/> その他（緊急端末） 	<p>避難確保計画：様式3</p>
<p>注意体制確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 大雨注意報 <input type="checkbox"/> 土砂災害危険度レベル1 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 防災情報の収集 <input type="checkbox"/> 浸水防止対策の準備 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
<p>大雨洪水警報の発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 職員の参集 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>

防災情報の収集方法 おかやま防災ポータル（インターネット）

The screenshot shows the Okayama Disaster Portal website with several callouts:

- 基本的に入手できる防災情報が網羅** (Comprehensive disaster information is available): Points to the main navigation menu.
- 登録すると必要な情報がメールで配信** (Registered users receive necessary information via email): Points to the registration link.
- 緊急情報** (Emergency Information): Points to the emergency information section.

The website interface includes a search bar, navigation tabs (Home, Weather, Typhoon, Observation, Evacuation, etc.), a news section with recent updates, a map of Okayama Prefecture with various alert levels (e.g., Tsunami, Earthquake, Flood), and a sidebar with additional disaster-related links.

【STEP4】施設の防災体制と対応内容、対応要員を検討しましょう。

避難準備・高齢者等避難開始の発令や市町村からの連絡、施設独自の情報収集などをもとに、段階的な体制確立の考え方と、各体制に応じた活動内容及び役割分担を構築しておきましょう。

作成フォーマットの「体制確立の判断材料」「対応内容」には、一般的な内容が参考で記載されていますので、同様な場合はチェックを、他に参考にする判断材料（周辺の用水路の状況、雨量の状況等）や、対応内容は追記してください。また対応内容それぞれについて、対応要員を記入してください。

施設名：（ ○○保育園 ）の対応		避難確保計画：様式2
体制確立の判断材料	対応内容	対応要員
<p>平常時</p>	<p>収集方法</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> テレビ（データ放送） <input checked="" type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット （おかやま防災ポータル、気象庁HP等） <input checked="" type="checkbox"/> 防災行政無線 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急速報メール <input checked="" type="checkbox"/> その他（緊急端末） </p>	<p>避難確保計画：様式3</p>
<p>注意体制確立</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 大雨注意報 <input checked="" type="checkbox"/> 土砂災害危険度レベル1 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 防災情報の収集 <input type="checkbox"/> 浸水防止対策の準備 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </p>	<p>園長、施設長</p>
<p>警戒体制確立</p> <p> <input type="checkbox"/> 大雨洪水警報の発表 <input checked="" type="checkbox"/> 洪水予報氾濫注意情報 <input checked="" type="checkbox"/> 氾濫注意水位超過 <input checked="" type="checkbox"/> 土砂災害危険レベル2 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 職員の参集 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の家族への連絡 <input checked="" type="checkbox"/> 持ち出し品の準備 <input type="checkbox"/> 浸水防止対策の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 避難経路の確認 <input type="checkbox"/> </p>	<p>園長、施設長</p> <p>各担任</p> <p>主任</p>
<p>始</p> <p>非常体制確立</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 避難準備高齢者等避難開始 <input checked="" type="checkbox"/> 避難判断水位超過 <input type="checkbox"/> 洪水予報氾濫警戒情報 <input checked="" type="checkbox"/> 土砂災害危険レベル（避難準備レベル） <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 避難開始の判断 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の移送開始 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </p>	<p>園長</p> <p>避難誘導要員</p>
	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 利用者避難完了の確認 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </p>	<p>避難誘導要員</p>
	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の安全確保・体調管理 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </p>	<p>全職員</p>

参考1. タイムラインのPDCA サイクルの循環

毎年定期的に訪れる出水期（5月～9月頃）に備え、施設の職員の異動や新入社員の採用等により、対象施設の避難確保計画の認知度が下がらないように、定期的な訓練や勉強会を実施していく必要があります。

タイムラインや避難確保計画を組織的かつ継続的に改善していくためには、計画のPDCA サイクル（Plan-Do-Check-Act）の循環が鍵となります。

Plan は、「本書の手順を通してタイムラインを作成すること」であり、Do はタイムラインの内容の実践、Check が計画の実効性の確認、Act が計画の是正を指します。ここでは、PDCA サイクルの中の【Do】、【Check】、【Act】について説明します。

I. 【Do】、【Check】に活用できる机上訓練

【DO】は、実際に施設から避難所へ避難する「避難訓練」を実施することが最も望ましいです。また施設職員の異動や新入社員の採用等を踏まえて、避難訓練の前に、「防災教育」によりタイムラインを周知すると効果的です。

【CHECK】は、【DO】を経て確認したタイムラインの実効性や課題を整理します。確認のポイントは、以下のとおりです。

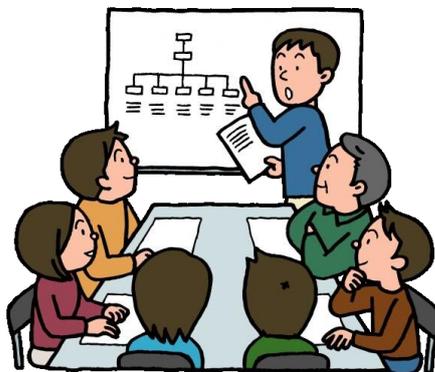
1. 避難確保に向けて見落としている危険性はないか
2. イメージする災害の規模が妥当であるか
3. 各段階における体制や対応内容が妥当か
4. タイムライン上で予定している対応の所要時間を短縮する術はないか

Ⅱ. 【Act】に活用できる“見直しのポイント集”

計画の見直しのポイントを以下に示します。関係者が集まって議論することで、タイムラインの実効性を向上させるとともに、職員の防災力が向上します。

タイムラインの見直しのポイント

- ① 浸水想定区域図等の浸水想定に変更はないか
- ② 建屋のハード対策の実施状況により被害想定に変更はないか
- ③ 施設職員数に大きな変更はないか
- ④ 立ち退き避難先は妥当か
- ⑤ 屋内安全確保の避難場所は妥当か
- ⑥ 訓練を経て従業員の防災意識が高まっているか
- ⑦ 教育・訓練が定期的実施され、タイムラインや避難確保計画フィードバックされているか



参考2. 避難確保計画とBCPとの位置付けの違い

避難確保計画とBCPの対象や目的の違いについて、以下に示します。

表 1 避難確保計画とBCPとの位置付けの違い

計画	対象施設・対象者	対象期間	目的
避難確保計画 ※水防法、土砂災害防止法により作成が義務	<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域内に所在し地域防災計画に定められた要配慮者利用施設（高齢者、障害者、乳幼児、病院等） 施設の利用者、従業員 	洪水や土砂災害の 恐れがあるとき ～利用者、従業員の 安全確保	施設利用者、従業員が洪水や土砂災害の危険があるときに、 安全に避難できるようにする
BCP (事業継続計画)	<ul style="list-style-type: none"> 事業者 従業員 	地震災害や浸水被害の 発生（発動） ～事業の 復旧、復興まで	事業所が地震や洪水等により被害が発生したとき、「 重要な業務を優先して遂行し、機能を維持する 」「 機能の早期復旧を図る 」

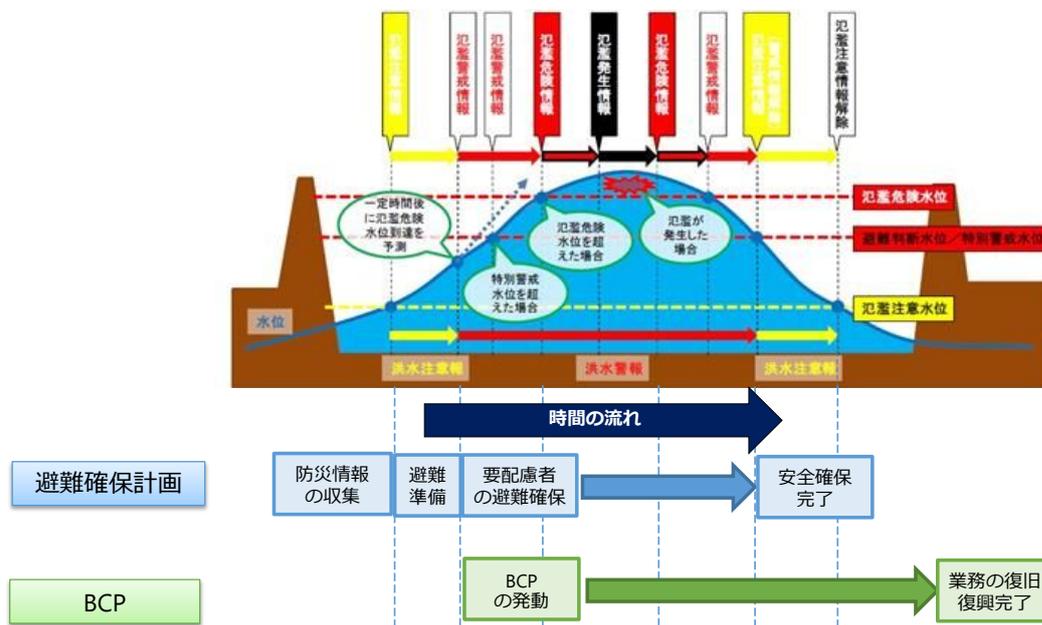


図 1 避難確保計画と水害版 BCP 等との対象期間のイメージ（洪水の場合）

参考3. 施設・設備・製品等の保全・減災対策

避難の確保を行うにあたり、施設や設備・製品等の保全・減災対策として、事前に退避方法または浸水防止方法を検討する手順を以下に示します。

(1) 対象施設・設備・製品等の整理

もしも施設が浸水した場合に、被害が発生する設備、機械、製品、原材料、危険物について推定・検討を行います（表 2 参照）。

移動可能な車両や設備（パソコン、ハードディスク等）、製品（商品）・原材料、危険物と移動不可能な施設・設備、製品（商品）・原材料、危険物を整理の上で、浸水防止対策の方法について検討を行います。

表 2 施設・設備の保全・減災対策の対象のイメージ

退避可能な資産	車両、精密機器（パソコン、ハードディスク）、重要書類など	施設の浸水想定階数以上、別施設・高所への事前退避
退避不可能な資産	大型の固定機械・精密機器	機械の周囲への対策を行います。
退避の可否を適宜判断	製品（商品）、原材料、危険物（薬品、燃料、産業廃棄物、ゴミ等）	浸水しない高所への退避、流出防止対策

(2) 対象施設における浸水防止活動の内容とタイミングの整理

施設・設備の保全・減災対策の対象を整理の上で洪水発生の時間的猶予を考慮し、どの場所で（施設の敷地や建物の出入口等）浸水・止水対策を行うか、いつ開始するのか、検討を行います。

(3) 対象施設における浸水防止活動上の必要資材量の把握

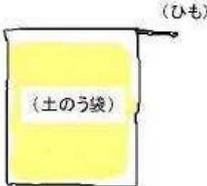
浸水防止活動を行う場合、どのような施設・設備、どの程度の資機材が必要となるかを検討します。

例えば、浸水を防ぐための土のうを施設の入り口に全て設置する場合の必要資機材量を推定します。

なお、浸水を防ぐための工法については、従来は土のうによる止水が一般的でしたが、近年の豪雨災害の頻発や高齢者家庭の増加を踏まえ、「設置・撤去

が簡単」、「迅速な対応」、「費用対効果の高さ」を満たすような新たな浸水防止対策の開発が進められています。

土のうの作り方

- ①  (ひも)
(土のう袋)
- ・ 土のう袋を用意します。
 - ・ 土のう袋は縦60cm、横45cm程度の大きさを上部に締めて閉じるひもがあります。
- ②  重さ約25kg程度
- ・ 二人一組で協力して、袋に土を入れます。
 - ・ スコップ5～7杯程度の土を入れます。
 - ・ 袋の約6～8割ほど土を入れます。
- ③  ひもを引く
- ・ 袋の端のひもを引いて、袋の口を絞ります。
- ※ 訓練で女性、子ども、お年寄りの方が行う場合は、土の量は袋の半分程度に調整してみてください。
- ④  袋の口の周りにひもを3～4回まわし
ひもの内側を下から上に引いてしめる
- ・ 引いて長くなったひもで、袋の口のまわりを3～4回まわして軽く締めます。
 - ・ まわしたひもの内側を、ひもの先を下から上に通して締めると完成です。
- ※ ひもを上から下に通して締めてもOKです。

(土1㎡あたりで作成できる土のう数の目安)

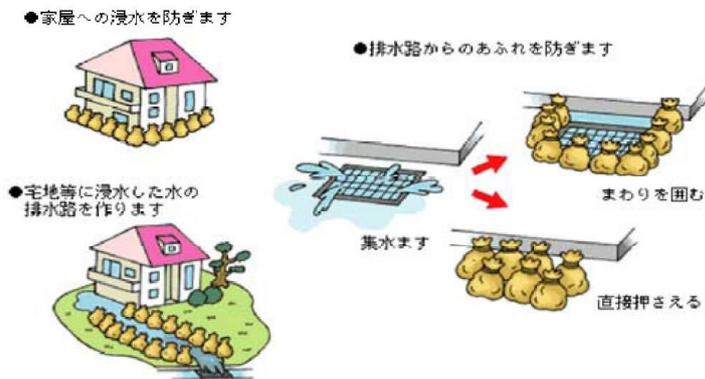
袋詰め程度	土のう作成数	土のう1袋の重量
5割程度	約100袋	約18kg
6割程度	約80袋	約22kg
7割程度	約70袋	約26kg
8割程度	約60袋	約30kg

(出典：岡山市ホームページ)

図 2 土のうの作り方 (1/2)

土のうの用法など

土のうにより事前に浸水を防いだり、排水路を作ったりすることができます。締めた口を一方向にして並べ、土のうの上からしっかりとおさえましょう。



小規模な浸水であれば、土のうの代わりに日ごろから家庭にあるものを使って浸水を防ぐことができます。

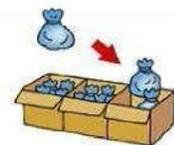
簡易水のう

家庭用の大きいゴミ袋を2～3重にして、その中に半分程度の水を入れて口をしっかりと絞って作ります。たくさん作って、出入口などに隙間無く並べて使用します。



簡易水のうと段ボール箱の併用

簡易水のうを段ボール箱に入れて連結して使用します。水だけの場合に比べて強度が増しますし、段ボール箱に入れることによって水のを積み重ねて使用することができます。



プランターとビニールシートによる方法

花などを植える土の入ったプランターをビニールシート（レジャーシート等）で巻き込み、連結して出入口などに並べて使用します。
※ プランターの代わりに水を入れたポリタンクも使用できます。



(出典：岡山市ホームページ)

図 3 土のうの作り方 (2/2)